

研究代表者 所属・職：健康科学部・准教授

氏 名：坂口 大史

研究課題名：亀崎建築塾の他地域への展開による地域活性化と住民主体のまちづくりに関する実践的研究

研究の概要

研究代表者はこれまで、半田市亀崎地区をフィールドに、住民、NPO、行政や各施設の職員と連携してまちづくり活動に取り組んできた。本研究では、これまで取り組んできた、亀崎地区におけるまちづくり活動を有脇地区にも展開する。具体的には、子どもが地域の垣根を超えて交流できるものづくりに関する YouTube チャンネル「建築ものづくり塾」を活用しながら、オンライン活動と対面式のワークショップとのハイブリッド方式による地域活性化まちづくりを展開し、その効果を実証することを目的とする。

達成状況・成果内容

1. オンライン動画と対面式ワークショップを組み合わせた新しいまちづくり活動の展開

本研究では、2022 年 8 月に亀崎図書館にて小学生 38 名、有脇児童館にて小学生 16 名による、対面式のものづくりワークショップを実施した。

2. オンライン動画を活用したまちづくりの効果に関する具体的なデータの収集と検証

オンラインを活用した動画を配信することで、世代及び地域を超えた交流が促進された。また、亀崎地区と有脇地区の 2 地域の交流を促進すべく、双方の活動をアーカイブ化したワークショップ動画を配信することで、亀崎地区から有脇地区への参加、有脇地区から亀崎地区への参加が増加するなど、オンライン動画を活用したことによる交流の活発化において一定の効果が示された。

3. 地域の垣根を超えた交流の促進

本研究において、地域を跨いだワークショップを企画したことで、これまで行ったことのない地域施設へ訪問するきっかけにもなり、今後も施設を利用したいという声も多く聞こえた。ワークショップの開催により人的な交流はもちろんのこと、地域施設の利用活性化、ひいては地域の活性化に貢献するという副次的な効果も得られた。

今後の展望

1. ポストコロナを見据えた新しいまちづくりの実践

本研究で得られた成果として、まちづくりにおけるオンライン動画の活用は、対面式のワークショップを行う際にも効果的であることが示された。また、地域を超えた活動を行う際に、動画によってワークショップの様子や他の地域の施設概要が事前に把握できるなど、オンライン動画を取り込むことで、新しいまちづくりモデルの実践が可能となる。

2. 多世代におけるオンライン動画を活用したまちづくりの展開と効果の検証

本研究では、コロナ禍での実施である点を考慮して、ワークショップの対象は小学生に限定した。今後の展望として、20代-70代など幅広い世代を対象とし活動にすることで、オンライン動画の有用性についてより有益かつ定量的なデータが収集することができる。

3. 新しいまちづくり活動の他地域への更なる展開

本研究で取り組んだ、オンライン併用型のまちづくり活動は、亀崎地区や有脇地区のみならず様々な地域で展開可能と考えられる。よって、半田市内もしくは市街における他地区へ活動を展開していくことは、地域活性化のみならず、住民間の多世代での交流を促進する面でも効果的であると考えられる。